AgileWorks R3

X-WebForm インストールマニュアル

R3.3 第 1 版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. はじめに 4
1.1. 動作環境 4
2. X-WebForm のインストール 5
2.1. インストーラの実行 5
3. インストール後の作業 9
3.1. ライセンスの登録 9
3.2. アップデート 10
3.3. アンインストール 10

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. はじめに

『X-WebForm for AgileWorks』(以下、X-WebForm と呼称) は、ワークフロー製品『AgileWorks』上のフォームを開発する為のソフトウェアです。本書では X-WebForm の導入手順について説明します。

1.1. 動作環境

X-WebForm を利用する際に必要となるクライアント端末のスペックです。

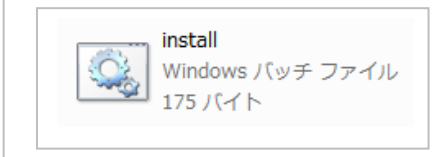
CPU	x86 互換 CPU1.0GHz 以上(マルチコア CPU を推奨)
メモリ	4GB 以上(6GB 以上を推奨)
HDD	150MB 以上の空き(J2SE 未導入の場合)
対応 OS	・Microsoft Windows 11
対応 JDK	Java SE 8u40 以降 ※JRE では動作しません。 ※製品モジュールには LibericaJDK-8 が同梱されています。
対応 Web ブラウザ	・Mozilla Firefox ・Google Chrome ・Microsoft Edge（Chromimu ベース） ※IE モードは非対応となります。
内蔵 AP サーバー	Apache Tomcat 5.5.17 ※プレビュー時に利用されます
PDF 作成	X-WebForm では、PDF 印刷オプションは試用ライセンスで動作します。その為、PDF 表示では常に背景に「ATLED」という文字が表示されます。
対応 PDF ビューア	Adobe Reader 11.0 以降

2. X-WebFormのインストール

2.1. インストーラの実行

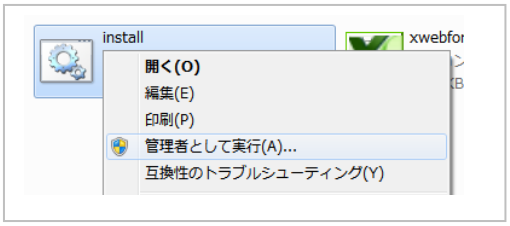
1. 製品モジュールを展開します。

2. 展開先ディレクトリ直下に配置されている「install.bat 」を実行します。



クライアントに J2SE がインストールされていない場合、インストーラ実行中にインストールすることも可能です。その際、「install.bat」を管理者権限で実行する必要があります。管理者権限がない場合、J2SE のインストールを行うことができません。

管理者権限での実行ができない場合(コンテキストメニューに表示されない場合など)は、管理者権限を持つユーザーで予め J2SE のインストールを行なっておいて下さい。インストール媒体は展開先ディレクトリ配下の「xwebform/j2se」に配置されています。





管理者権限が無い場合は J2SE のインストーラが起動しない

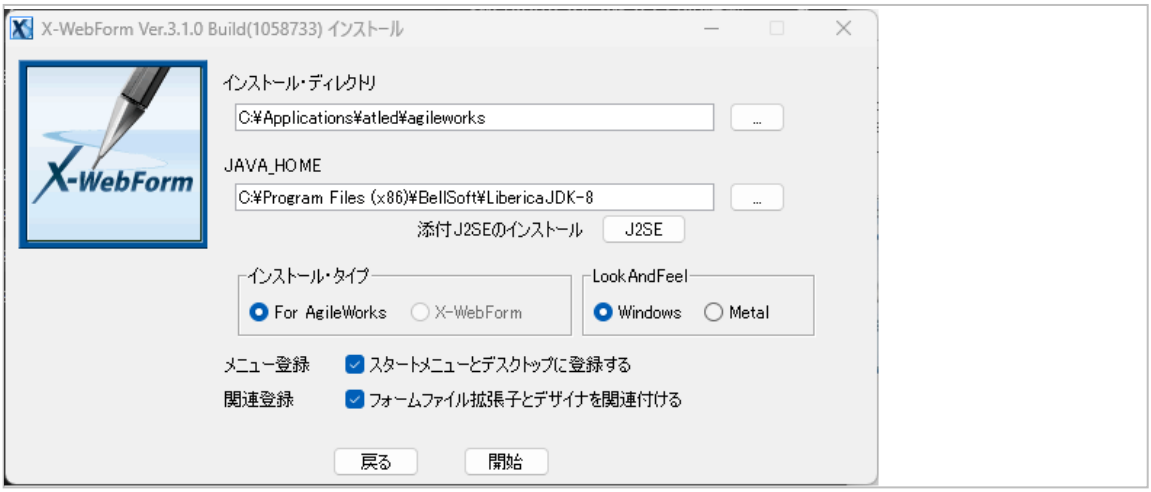
3. 使用許諾の確認

内容をご確認いただき同意できる場合は、下部のチェックボックスをチェックして先に進みます。



4. インストール事前設定

X-WebForm のインストール先や J2SE がインストールされているディレクトリ(JAVA_HOME)等を指定します。J2SE がインストールされていない場合は先に進むことができません。その場合は、「J2SE」ボタンをクリックして J2SE のインストールを行います。J2SE のインストール・ディレクトリを変更した場合、JAVA_HOME の設定を適宜変更してください。

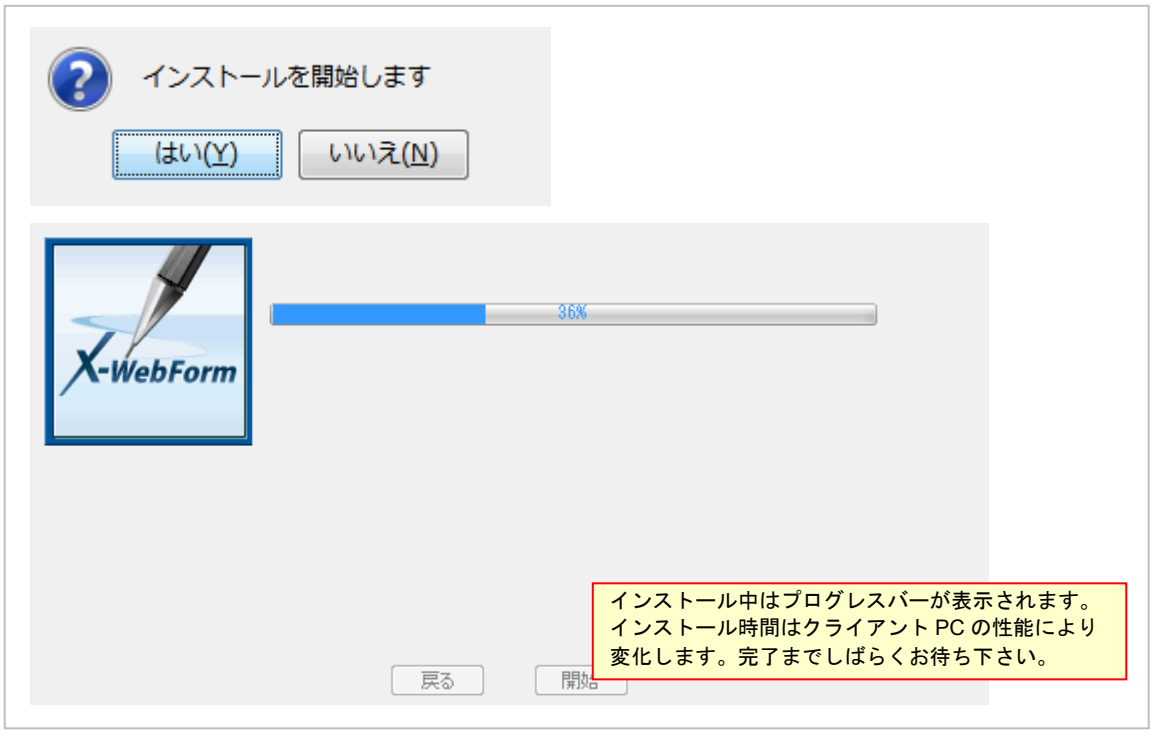


項目	説明
インストール・ディレクトリ	X-WebForm をインストールするディレクトリを指定します。 Windows、Program Files 等のシステムフォルダ以下のパスを指定しないようにしてください。
JAVA_HOME	X-WebForm の実行に使用する J2SE のパスを指定します。
インストールタイプ	for AgileWorks 固定となります。
Look And Feel	フォームデザイン機能を利用する際の外観を指定します。X-WebForm は”Windows”スタイルを基本として作られていますので”Windows”の選択を推奨します。
メニュー登録	スタートメニューへの登録、デスクトップに起動用のショートカットを作成します。

関連登録	フォーム保存ファイルの拡張子 XWF とデザイナを関連付けます。登録を行うと拡張子 XWF を持つファイルをエクスプローラよりダブル・クリックすると X-WebForm で開くようになります。

5. インストールの開始

インストール先などが決まったら【開始】ボタンをクリックします。確認ダイアログが表示され、【はい】をクリックするとインストール開始します。インストール中はプログレスバーが表示されます。インストール時間はクライアント PC の性能により変化します。完了までしばらくお待ち下さい。



6. インストールの完了

インストールが正常に終了すると以下の完了画面が表示されます。【終了】ボタンをクリックすればインストールは完了です。



インストール中に問題が発生するとエラー画面が表示されます。
エラー発生時のログは、インストール・ディレクトリ内の log フォルダ内に”install-yyyy-mm-dd-hh-mm.log”形式で保存されます。

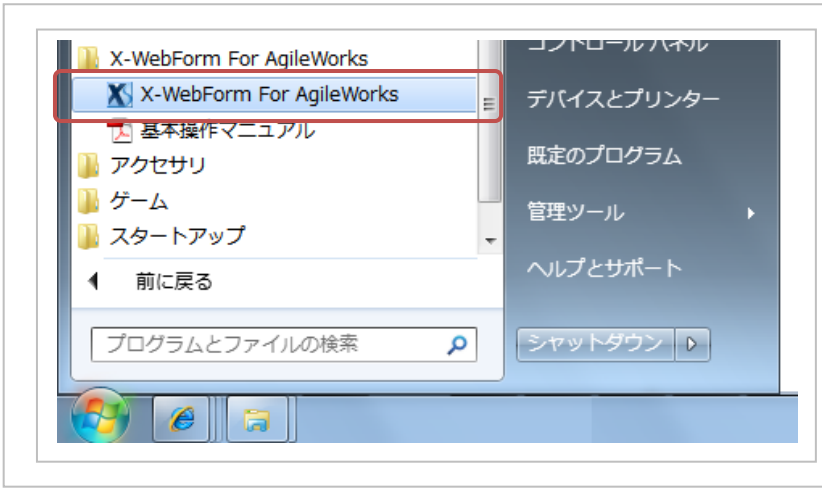


3. インストール後の作業

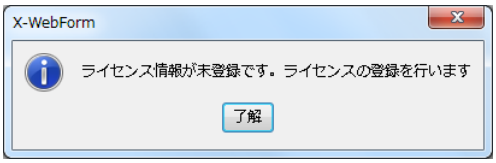
3.1. ライセンスの登録

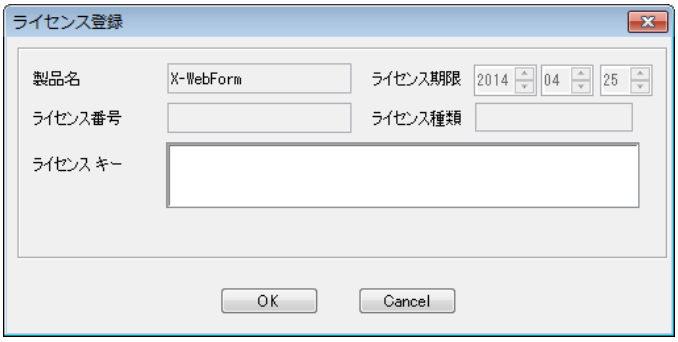
X-WebForm を利用する為にはライセンス登録を行う必要があります。ライセンスは弊社販売パートナよりご購入いただけます。試用ライセンスにつきましては弊社販売パートナまでお問い合わせください。

デスクトップ・スタートメニューを選択、またはインストール・ディレクトリ直下にある「xwebform.cmd」を実行し、X-WebForm を起動します。



初めて起動する場合や、ライセンス期限を過ぎた場合、ライセンス情報に誤りがある場合にライセンスの登録画面が表示されます。ライセンスファイル中のライセンスキーを直接入力して登録します。





ライセンスキーに誤りがあるとダイアログが表示され終了してしまいます。再度起動して正確に入力してください。
正しいライセンスが登録されると起動画面が表示され、X-WebForm の初期設定画面が表示されます。

> ⚠ 注意事項
> 使用中のパソコン以外で同じライセンスキーの X-WebForm が利用されている場合、X-WebForm を利用中に、「同一ライセンスキーの X-WebForm が他の PC[(IP アドレス)]で起動しています」といったメッセージが表示されます。他のパソコンで起動している X-WebForm を終了させるとメッセージは表示されなくなります。

3.2. アップデート

X-WebForm のアップデートは、特に指定がある場合を除き新規インストールと同様の方法で上書きインストールを行います。上書きインストールを行なうことで登録されているライセンス情報や設定情報がそのまま引き継がれます。

> ⚠ 注意事項
> R2.5.0 より、ライセンス形式が変更されているため、R2.4.0 以前から R2.5.0 以降にアップデートした場合はライセンス情報を更新する必要があります。

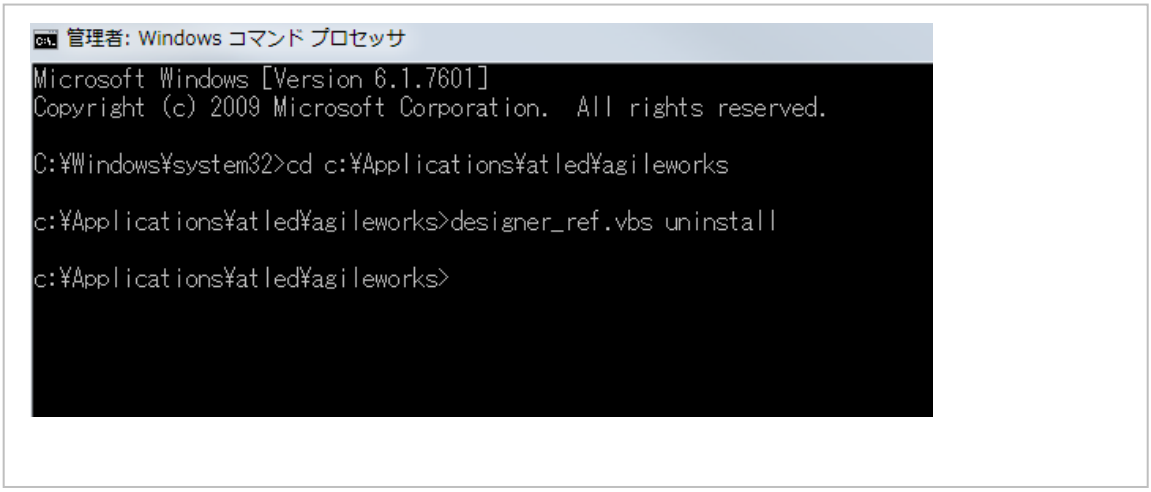
3.3. アンインストール

X-WebForm のアンインストールは次の手順で行います。

1. ファイルの関連付けの削除

コマンドプロンプトを開き、関連付け削除の VBS を実行します。

```
cd (インストール・ディレクトリ)
designer_ref.vbs uninstall
```



2. インストール・ディレクトリ以下を全て削除
3. スタートメニューを削除
4. デスクトップアイコンを削除